

2018年3月期決算説明会 質疑応答概要

Q.新体制での会長の経営への関与の度合いは？

A.（代表取締役会長：富山）経営は基本的には今の経営陣・グループ会社の社長に任せています。役割分担としては、私はガバナンス・コンプライアンスの部分を担っています。

Q.中期経営計画での欧米の完全立て直しとはどのような状態を指すのか？また、それに向けての具体的な施策は？

A.（代表取締役社長：小島）売上高を増加させることで利益を生み出す体質に持ち込むことが完全立て直しだと思います。それには将来の商品を企画し、設計し、仕込み、投入していくという良いサイクルに持ち込むことが必要です。2018年度はまだ凌ぐステージですが、2019年度からこの循環に入ります。欧米の中では、アメリカが先行し、欧州はそこから少し遅れるとご理解ください。また、欧米の力に頼るだけでなく、日本に新たに設ける大規模な開発センター発のグローバルヒットを生み出すことによっても、完全立て直しに寄与していきたいと考えています。

Q.中期経営計画では、おもちゃ以外の展開が全くないが、それでは成長に限界があると思う。おもちゃ以外の展開についてはどのように考えるのか？

A.（代表取締役社長：小島）おもちゃ以外にもアプリの開発などがあります。ただし、当社の強みは玩具事業であり、玩具の中でもアナログを中心としたギミックや造形、あとはお客様の琴線に触れるようなものに仕立て上げていく、そこに当社の強みがあると思っています。そういうものを生かせる領域に、強みをさらに強化しながら挑戦していきます。おもちゃだけでは成長はないとは思っていません。グローバルでは玩具市場は伸びていて、子どもの人口も増えています。我々はその市場に積極的に展開していき、そこで十分に成長できると思っています。

Q.今期の重点商品の中に「ZOIDS」があるが、目標とする売上、販売数量があれば教えてほしい。「ベイブレードバースト」「トランフォーマー」並みの期待をしてよいか？

A.（代表取締役社長：小島）具体的な数字は控えさせていただきますが、「ベイブレードバースト」「トランフォーマー」レベルに育つことを期待しています。しかし、それを2018年度の計画に織り込んでいる訳ではありません。

Q.買収防衛策を継続されているが賛成率は低い。今後、継続されるのか？

A.（常務執行役員：沓澤）次に買収防衛策を総会にかけるとしたら来年になりますが、現状では上程するかどうかは検討中です。

以上